

## 生涯教育方向性

リチャード・A・メリット（南山短期大学名誉教授）

ますます生涯教育に関心が高かまってきた今日、『人間関係』で特集のテーマとして生涯教育を取り扱うことは喜ばしいことです。云うまでもないことですが、生涯教育の存在理由として、学校で学んだことがまだまだ不十分であるから、知識を増やしたり、文化を高めることなどがあげられます。まず生涯教育の教科内容の種類は学びたいと思う人の数だけあるといてよいでしょう。生涯教育の場合、なんらかの設定がなされることは不可避的な条件であると思わざるを得ないのですが、拘束されずに教育を受けるのが肝要なのです。だからこそ学ぶ方法は一応無限のようなものだと思いますが、おそらく関係科で実施している学習法はいかなる教育にもあてはまると思います。

ただし、注意は必要でないかもしれませんが関係科で取り扱う内容がどの教育においても必然的な内容であると思っはなりません。

生涯教育で取り扱う教科内容は、くりかえしますが、各々の関心事または興味によって定めるべきものですから、無限に近いものであって、生涯教育を特色づけるものの一つと云えます。

体験学習の原理にしたがう限り、学習過程（プロセス）を一人一人の学習者にまかせるのは当然といてよいでしょう。

最近、批評されている受験勉強に対するオルタナティブとして——例えば上記の内容またはプロセスを学ぶもの自身にまかせるということにもかかわらず、以下のことを重視したらどうでしょうか。つまり自然または人間性に対する態度を養うことが最も大切なことだと私は思います。（このような態度が現在薄らいでいるということに異論があるでしょうか。）しかもそのような態度を取り戻さない限り、地球と人類と共に滅亡からのがれる可能性は少くないといえるほど、その問題は重大なのです。ある意味において生涯教育の中心課題（Core-CorricioLom.）であると云えるわけです。

自然と人間性に対する尊重を取り戻す考えがあれば、それぞれについての考え方が科学的考慮に片寄らないことが望ましいことです。要するに科学的観方によってのみではそれぞれの本来の性質をとらえ得ないのではないのでしょうか。むしろより包括的——宗教的考察を含む観方——が必要なのです。有名な哲学者 Whitehead が指摘したように、即ち「教育の真髄は教育が宗教的でないければならない」のである。

次のように述べた人間関係科の学生の考えによって、生涯教育の出発点が提示されていると思われます。つまり、

- 「化学肥料に飛びつく前に何を考えるべきか」
- 「人間本来の目的が失なわれつつあるのではないか」
- 「今一番、教育されなくてはならないのは何か」
- 「本当に必要なものは何か、慎重に考えなくてはいけない」
- 「地球号を乗客全員で運転していかなければ……………」
- 「精神的には貪しくなってしまったように感じる」
- 「知らず知らずのうちに地球の生態系が破壊されつつある」

以上のことが私たちにつきつけられて (challenge) いるのです。そして、有名な歴史学者のトインビーが述べたように、

時代のチャレンジに対する応答が妥当なものであるかどうかによって、自然と人間性が救われるかどうかが決まるわけです。もし私たちが現代のチャレンジに慎重に応答するつもりであれば、二つのことを同時に留意する必要があります。一方では代々伝えられてきた知恵を参考にすること、他方では未来の成りゆきをできるだけ予想してみることです。

前者の場合、特に気をつけることとして、トフラー (Toffler) が注目したようにバックミラーの見解に陥らないことです。というのは過去のことをなつかしむという魅惑をされないことです。却って各々が未来に焦点をあてて自分はどういう役割を果すかを想像する必要があります。(Future focused Role-image)

私は皆に勧めたい役割として、創造的逸脱者もしくは予言者のような役割を取って欲しいのです。自然または全人類のニーズ (needs) を軽視する傾向があればそれを指摘して共に、よりよい方向に向かって歩む。置きかえて言えばただ批判するばかりではなく、私たちが互いに、倫理観を高めてゆくこと。現状に直面して、その状況をひき起こした原因または風潮の根拠を明らかにする努力が必要です。

現状と云いましたが、その著しい特徴の一つは快樂的消費主義であって、そのために持てるものと持たざるものの不均衡が生じています。換言すれば、生活スタイルを変える時期に来ていると云えます。要するに私たちを含む5分の1の持てる人々が他の5分の4の持たざる人々の福祉を奪っている状況を反省しなければなりません。

誰かが指摘したように「We must live simply so that others may simply live！」（大部分の人々がただ単に生き残ることができるために私たちはより素朴な暮らしをしなければならない）。

このようなチャレンジが生涯教育の目的ではないでしょうか。チャレンジにこたえる原動力を呼びおこすのに精神的覚悟が求められます。上に述べたように、自己の生活をみつめ直し、改めることが生涯教育の大切な方向性（目標）と私は思います。

